

『コロサの由来』

多根町「コロサ」の地名は、カナ書きです。地元の人たちに、そのわけを尋ねると、『コ』は、狐(きつね)、『ロ』は、狼(おおかみ)、『サ』は、猿(さる)の意味で、昔から、狐や狼、猿が、たくさんいたから、



「コロサ」とカナ書きになっている。』と、教えてくれました。

ともかく、そんなところですから、昔から、「カワウソ」などもいたらしく、それについて、面白い話が伝えられています。

ある村人が、コロサの森の木を、伐ったところ、「カワウソ」は怒って、ある晩、その男を、外へ呼びだしました。

あくる朝、村の人たちが、その男が、大きな石と組み合っているところを見つけました。その男に、「何をしているのか。」と尋ねたら、「相撲をとっているのだ。」と答えたそうです。

このように、「コロサ」は、いかにも、ぶっそうな山間の村でしたが、今は、多根ダムの完成により、水の下になりました。その名残りとして、ダムに架かる橋は、「狐狼猿橋」と名づけられています。

多根ダムは、新七尾八景の一つに数えられています。春は、うぐいすが鳴いて、山桜が水面を彩り、秋には、いろいろな小鳥が囀(さえず)り、紅葉が水面に映り、まったくの別天地になっています。

(多根町 伝承)